

世代性高いほど幸福感強い

中高年の意識調査を終えて

田淵恵 (関学大学院)

社会還元センターグループ「わ」の皆様には、2010年・2011年の2度に渡り、質問紙調査「中高年者と若年世代のかかわりに関する調査」にご協力いただきました。質問項目が多かったにも関わらず、2010年度は合計676名、2011年度は合計623名と、非常に多くの方々にご協力いただきました。調査最後の感想欄では、調査や研究に対する励ましのお言葉までいただき、皆様のあたたかさにも触れ感動いたしました。貴重なお時間を使って回答してただけましたことに、研究班一同心からお礼を申し上げます。

わたくしの研究テーマは、「中高年者の世代性」です。「世代性」とは、「若い世代の人たちを支援導いていくことへの関心」であり、中高年者にとって大切なことの発達とされております。これまでの研究では、「世代性」が高い中高年者は、若い世代へのボランティア活動や地域貢献活動などにに関わり、幸福感が高いことが報告されてきました。調査の結果、グループ「わ」の皆様は、「世代性」に関わる幅広い社会貢献活動に積極的に参加されていることが分かりました。しかし同時に、若い世代の人たちから感謝の言葉、態度が返ってこなければ、「世代性」が低下して活動が続かず、幸福感にもつながらないことが分かりま

した。

このことは、感想欄での皆様の言葉からも伝わってまいりました。若い世代の人たちとの関わりを持っ

ても、思っていた反応が得られなかったために、悪い印象を持ってしまったという方や、若い世代の人たちに何かしてあげたい、自分たちの経験を伝えたいと思っている一方、若い世代の人たちからあまり受け入れられていないと感じるため、活動に積極的に取り組めないという方もいらっしゃいました。

また逆に、思いがけず「ありがとう」の言葉や笑顔を若い人たちからもらったため、若い人たちと関わるボランティア活動に興味を持ち、続けていらっしゃるという方もいらっしゃいました。

相手の態度によって行動が続かなかったり、幸福感につながらなかつたり、ということは、世代間の関係に関わらず、人と人が関わるどんな行動にも当てはまることかもしれません。些細なことであっても、相手の行動に対して「ありがとう」という態度を示すことが、お互いのことの発達と幸福感につながるということでしょうか。「ありがとう」を、世代を超えて伝え残していくことこそ、お互いの世代の幸福感につながる大切なことだと、調査を終えた今、感じております。



〈わ〉の会員を対象にした調査を担当された関西学院大学院文学研究科・田淵恵さんからの寄稿です。

エコ工作にチャレンジ 未来館

環境未来館（西区）で8月26日、「夏休み自由研究お助け隊」が開催され、宿題を仕上げようという子供たち62人が父母らと訪れ大盛況でした。この催しは、身近にある木片やペットボトル、牛乳パック、布きれなどを再利用し、車やバッグ、ウクレレ、写真立てなどを作り、この作業を通して環境問題を考えようというもので、各サークルと未来館のスタッフ約40人が子供たちのお手伝いしました。

8つのブースには、10時のオープンと同時に子供たちが駆けつけ、お父さんやお母さん一緒になって作品作りに汗を流していました。中には、4つも5つもブースを回ってチャレンジ。たくさんの作品を抱えて帰る子もいました。

この日、①木工工作（担当・木工クラブ）②エコバッグ（銀の匙）③エコ工作（カーネーション）④



布ぞうり（生環16期）の4ブースは各グループが協力。⑤おもちゃ作り⑥ピオトープ観察⑦昆虫採集⑧草木染の4ブースは未来館が担当しました。

（環境未来館）＝写真は布ぞうり作りにチャレンジする男の子＝木田育義撮影